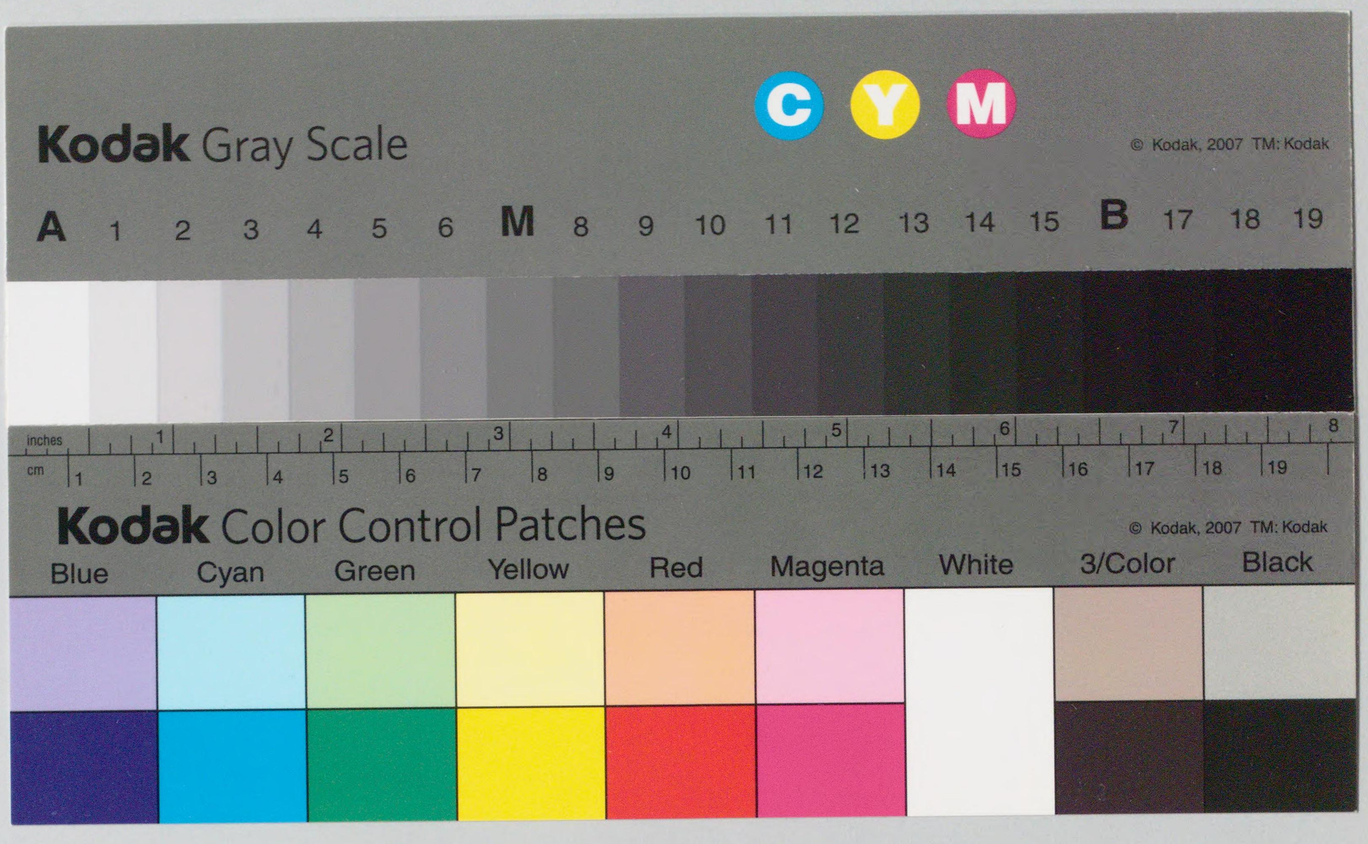

官報

昭和十九年四月五日
第五千百六十五號 水曜日

目次

勅令
朕臺北帝國大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
御名御璽
朕臺北帝國大學講座令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
御名御璽
朕朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
御名御璽
附則

勅令

朕臺北帝國大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十九年四月四日

内閣總理大臣 東條英機
内務大臣 安藤紀三郎

勅令第二百二十八號

臺北帝國大學官制中左ノ通改正ス

第一條中「教授 專任百九人」ニ「助教授 專任八十三人」ヲ「教授 專任九十八人」ニ、「助手 專任百六十六人」ニ、「書記 專任三十七人」ヲ「書記 專任三十八人」ニ改ム

第十七條中「主事」ヲ「部長」ニ、「教授 專任十八人」ヲ「教授 專任十九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年六月三十日迄ハ第一條ノ改正規定ニ拘ラズ教授ハ專任九十九人ヲ以テ定員トス

昭和十九年九月三十日迄ハ第一條ノ改正規定ニ拘ラズ助教授ハ專任八十八人、助手ハ專任百四十六人ヲ以テ各定員トス

朕臺北帝國大學講座令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十九年四月四日

内閣總理大臣 東條英機
内務大臣 安藤紀三郎

勅令第二百二十九號

臺北帝國大學講座令中左ノ通改正ス

理學部ノ部中「化學 三講座」ヲ「化學 四講座」ニ改ム

農學部ノ部中「農學、熱帶農學 四講座」ヲ「農學、熱帶農學 五講座」ニ改メ「家畜病理學 一講座」ノ次ニ「家畜內科學 一講座」ヲ加フ

工學部ノ部中「機械工學 二講座」ヲ「機械工學 五講座」ニ、「電氣工學 五講座」ニ、「應用化學 五講座」ヲ「應用化學 五講座」ニ、「土木工學 三講座」ヲ「土木工學 五講座」ニ、「工業分析學 一講座」ヲ「工業分析學 化學 一講座」ニ改メ同部ニ左ノ如ク加フ

冶金學 一講座
工業地質學 一講座

附則

本令中機械工學、電氣工學、應用化學、土木工學、冶金學、工業地質學ノ各講座ニ關スル部分ハ昭和十九年七月一日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十九年四月四日

内閣總理大臣 東條英機
内務大臣 安藤紀三郎
大東亞大臣 青木一男
大藏大臣 石渡莊太郎

勅令第二百三十號

朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令中左ノ通改正ス

「朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令」ヲ「朝鮮臺灣樺太關東州滿洲及南洋群島在勤文官加俸令」ニ改ム

第一條 朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官及南洋廳長官ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給ス

朝鮮臺灣樺太關東州滿洲及南洋群島在勤ノ其ノ他ノ文官、試補、司法官試補及見習ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル加俸ヲ給スル者ノ範圍ハ加俸ニ關スル豫算ノ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐箚特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官加俸ニ關スル豫算ノ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

明治四十年勅令第百二十四號中左ノ通改正ス

第一條中「在勤手當ヲ支給ス」ヲ「在勤手當ヲ支給スルコトヲ得」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル在勤手當ヲ支給スル者ノ範圍ハ樺太廳長官內務大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

大正六年勅令第二百三十五號中左ノ通改正ス

第二條第一項中「內地人タル」ヲ削リ「加俸ヲ給ス」ヲ「加俸ヲ給スルコトヲ得」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條ニ第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル加俸ヲ給スル者ノ範圍ハ臺灣總督內務大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

南洋廳巡査任用及給與令中左ノ通改正ス

第三條中「在勤加俸ヲ支給ス」ヲ「在勤加俸ヲ支給スルコトヲ得」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル在勤加俸ヲ支給スル者ノ範圍ハ南洋廳長官大東亞大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

大正十二年勅令第二百九十四號中左ノ通改正ス

第三條中「在勤手當ヲ支給ス」ヲ「在勤手當ヲ支給スルコトヲ得」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ規定ニ依ル在勤手當ヲ支給スル者ノ範圍ハ大使大東亞大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

大正十四年勅令第三百三號中左ノ通改正ス

第二條中「內地人タル」ヲ削リ「朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令」ヲ「朝鮮臺灣樺太關東州滿洲及南洋群島在勤文官加俸令」ニ改ム

昭和十六年勅令第二百六十一號中左ノ通改正ス

第十條中「樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ」ヲ削リ「加俸ヲ給ス」ヲ「加俸ヲ給スルコトヲ得」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル加俸ヲ給スル者ノ範圍ハ樺太廳長官內務大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

他ノ勅令中朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令又ハ朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令トアルハ朝鮮臺灣樺太關東州滿洲及南洋群島在勤文官加俸令トス

〔參照〕

明治四十三年三月二十八日公布勅令第百三十七號朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令抄錄

第一條　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤ノ內地人タル文官試補、司法官試補及見習ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給ス

明治四十年四月十八日公布勅令第百二十四號ハ樺太廳巡査ノ在勤手當、給與品及貸與品ニ關スル件、大正六年五月二十日公布勅令第二百三十五號ハ臺灣總督府警察官ノ巡査及消防手ノ給與ニ關スル件、同十二年六月六日公布勅令第二百九十四號ハ關東局巡査竝奏任及判任待遇監獄職員ノ任用及給與ニ關スル件、同十四年十月二十二日公布勅令第三百三號ハ朝鮮總督府巡査ノ給與ニ關スル件及昭和十六年三月二十六日公布勅令第二百六十一號ハ樺太公立國民學校職員ノ任免等ニ關スル件ナリ

朕昭和十六年勅令第七百十一號國民貯蓄組合法第八條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十九年四月四日

內閣總理大臣　東條英機
大藏大臣　石渡莊太郎

勅令第二百三十一號

昭和十六年勅令第七百十一號中左ノ通改正ス

第一項中「又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場」ヲ「創ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十六年六月十九日公布勅令第七百十一號抄錄

第一項

國民貯蓄組合法第七條ニ規定スル事項ハ同法第八條第一項ノ規定ニ依リ國民貯蓄組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ陸海軍ノ官衙（學校ヲ含ム）又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル國民貯蓄組合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

省令

◉宮內省令第四號

戰時中ノ宮內職員ノ休日ニ關スル特例ノ件勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

昭和十九年四月五日

宮內大臣　松平恒雄

戰時中必要アル場合ニ於テハ宮廨ノ長タル部局長官及京都地方事務所長ハ宮內大臣ノ認可ヲ受ケ昭和二年宮內省令第四號及大正十一年宮內省令第八號ノ規定ニ拘ラズ日曜日ト雖開廳シ所屬職員ノ全部又ハ一部ヲシテ平日ノ例ニ依リ執務セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正十一年七月五日宮內省令第八號ハ宮內職員ノ執務時間ニ關スル件及昭和二年三月四日同第四號ハ宮內職員ノ休日ニ關スル件ナリ

◉大藏省令第四十九號

造幣局鑛物分析試驗規則中左ノ通改正ス

昭和十九年四月五日

大藏大臣　石渡莊太郎

第二條第一項第一號中「金、銀其ノ他ノ貴金屬地金」ヲ「金、銀、白金及白金屬地金」ニ、第五號中「耐伸強又ハ耐壓強ノ試驗」ヲ「抗折試驗及耐壓試驗」ニ改メ第三條第二項中「金銀地金」ヲ「金、銀、白金及白金屬地金」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

定性分析ノ報告ハ檢出スヘキ成分ノ含有ノ有無ヲ表示ス

第四條第一項中「金銀其ノ他貴金屬地金」ヲ「金、銀、白金及白金屬地金」ニ改ム

第五條第一項第一號及第二號ヲ左ノ如ク改メ第三號中「耐伸強又ハ耐壓強」ヲ「抗折試驗及耐壓試驗」ニ改ム

一　定性分析　每一件一成分ニ付　一圓

二　定量分析

銅、鉛、亞鉛、タングステン、水銀、モリブデン、コバルト

每一件一成分ニ付　一圓

金、銀、白金、白金屬、アルミニウム、アンチモン、鐵、ニツケル、マンガン、クローム　每一件一成分ニ付　二圓

其ノ他ノ地金及鑛石

每一件一成分ニ付　三圓

但シ精製地金ノ分析ニシテ不純物ヲ檢出シ地金ノ品位ヲ決定スヘキモノニ在リテハ檢出不純物各箇ノ料金ノ合計ヲ以テ每一件一成分ノ料金トス

第六條ノ二　造幣局長分析又ハ試驗ノ爲必要アリト認ムルトキハ依賴者ヲシテ器具、機械又ハ資材ヲ提供セシムルコトヲ得

第六條ノ三　造幣局長必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ノ承認ヲ得テ分析又ハ試驗ノ手數料ヲ減免スルコトヲ得

第八條中「英文ニ依ル複本ノ交付ヲ請ハムトスルトキハ一枚ニ付二十錢ノ手數料ヲ」ヲ「創ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉文部省令第十七號

官立醫學專門學校規程左ノ通定ム

昭和十九年四月五日

文部大臣　子爵　岡部長景

官立醫學專門學校規程

第一條　官立醫學專門學校ニ於テハ專門學校令第一條ノ本旨ニ基キ醫學ニ關スル高等ノ教育ヲ施ス

第二條　官立醫學專門學校ノ修業年限ハ四年トス

第三條　官立醫學專門學校ノ授業ハ教授及修練トス

教授要綱及修練要綱ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　官立醫學專門學校ハ左ノ如シ

前橋醫學專門學校
青森醫學專門學校
松本醫學專門學校
樺太醫學專門學校

第五條　官立醫學專門學校ノ學科目及其ノ授業時數ハ別表ニ依ル

學校長ハ特別ノ必要アルトキハ各學科目ノ全學年ヲ通ズル總授業時數ヲ減少セザル範圍內ニ於テ其ノ學科目ノ各學年ニ於ケル授業時數ヲ變更スルコトヲ得

第六條　官立醫學專門學校ノ卒業者若ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ醫學ニ關スル特殊事項ニ付更ニ研究セントスル者ハ之ヲ研究生トシテ二年以內在學セシムルコトヲ得

第七條　官立醫學專門學校ノ學科目中一學科目若ハ數學科目ヲ選擇シテ其ノ課程ヲ履修セントスル者ハ之ヲ選科生トシテ四年以內在學セシムルコトヲ得

附則

第八條　本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第九條　前橋醫學醫門學校規程及樺太醫學專門學校規程ハ之ヲ廢止ス

第十條　本令施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ授業時數ハ新舊規程ヲ斟酌シテ學校長之ヲ定ム

別表

學科目	第一學年 授業時數	第二學年 授業時數	第三學年 授業時數	第四學年 授業時數
道義	三五	三五	三五	三五
人文	七〇	七〇	八四	八四
理數	一〇五	一一二	一〇五	一〇五
外國語	一〇五			
教練	一一二	一一二	八四	八四
體錬	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
基礎醫學				
解剖	二八〇			
生理	二八〇			
病理	一〇〇	一八〇		
藥理		八〇		
臨床醫學				
內科總論	四〇	二一〇		
外科總論	三五	一六五		

診療各論		
內科	八五	二六五
外科	八五	二一五
產婦人科		一二〇
眼科		六〇
小兒科	二〇	三〇
精神科		五〇
皮膚泌尿器科		八〇
耳鼻咽喉科	三五	二五
厚生醫學		
國民衞生	五五	一〇〇
國民體力		六〇
法醫	三〇	
醫事法制		一〇
軍陣醫學		
臨床及厚生醫學實習		三〇
		九八〇
計	一二六七	一二六七
	一二六七	一二三九
	一二三四	一二三四

◉文部省令第十八號

官立經濟專門學校規程左ノ通定ム

昭和十九年四月五日

文部大臣　子爵　岡部長景

官立經濟專門學校規程

第一條　官立經濟專門學校ニ於テハ專門學校令第一條ノ本旨ニ基キ經濟ニ關スル高等ノ教育ヲ施ス

第二條　官立經濟專門學校ノ修業年限ハ三年トス

第三條　官立經濟專門學校ノ授業ハ教授及修練トス

教授要綱及修練要綱ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　官立經濟專門學校位ニ其ノ科及學科ハ第一號表ニ依ル

第五條　官立經濟專門學校ノ各學科ノ學科目及其ノ授業時數ハ第二號表ニ依ル

學校長ハ特別ノ必要アルトキハ各學科目ノ全學年ヲ通ズル總授業時數ヲ減少セザル範圍內ニ於テ其ノ學科目ノ各學年ニ於ケル授業時數ヲ變更スルコトヲ得

第一號表

學校名	科名	學科名
長崎經濟專門學校	本科	經濟科
	研究科（海外貿易科）	
山口經濟專門學校	本科	經濟科、東亞科
	研究科（東亞經濟研究科）	
	別科（東亞經濟專修科）	
小樽經濟專門學校	本科	經濟科
	本科（商工經營研究科）	經濟科
名古屋經濟專門學校		
福島經濟專門學校	本科	經濟科
大分經濟專門學校	本科	經濟科、東亞科
彥根經濟專門學校	本科	經濟科、東亞科
和歌山經濟專門學校	本科	經濟科
橫濱經濟專門學校	本科	經濟科
高松經濟專門學校	本科	經濟科
	別科（東亞經濟專修科）	
高岡經濟專門學校	本科	經濟科、東亞科

第二號表

經濟科

學科目	第一學年 授業時數	第二學年 授業時數	第三學年 授業時數
道義	七〇	三五	三五
國語	七〇	七〇	
理數	一四〇		
教練	一九六	一一二	一一二
體錬	七〇	七〇	七〇
經濟	二四五	二一〇	二四五
商業經濟	（一〇五）		
經濟史	（七〇）	〃	〃
經濟地理	（七〇）		

| | | |

(二)借地權ノ存續期間、地代ノ賃借條件等

民法第四百八十八條ノ規定ニ依リ賃貸人ノ請求ニ因リ裁判所ハ賃借人ノ利益ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(一)賃貸人ノ請求ニ因リ裁判所ハ賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二)賃貸人ノ請求ニ因リ裁判所ハ賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(二十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(三十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(四十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(五十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(六十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(七十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(八十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(九十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百二十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百三十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百四十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百五十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百六十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百七十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十五)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十六)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十七)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十八)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百八十九)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百九十)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百九十一)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百九十二)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百九十三)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ得

(百九十四)賃借人ノ為メ其ノ期間ノ伸長ヲ為シ又ハ地代ノ支拂ヲ命ジ又ハ其ノ支拂ヲ猶予スルコトヲ

五、土塁又ハ建物ニ付所有權者ノ負擔ニ屬スル金額中未納額アルトキハ之ヲ控除シテ評價スルモノトス

六、土地及建物ノ賃貸料ハ昭和十五年勅令第六百七十八號地代家賃統制令ノ定ムルトコロニ依ルモノトス

第三　設備ノ評價

一、設備ノ時價ハ中古品、新品ノ區別ニ從ヒ左ニ依リ之ヲ評定スルモノトス

(一)中古品

イ、同一ノ品種及規格ノ中古品ニ付價格等統制令第七條第一項ノ規定ニ依ル發生者販賣價格ノ指定又ハ同令第三條第一項ノ規定ニ依ル發生者販賣價格ノ認可アリタル設備ニ在リテハ當該販賣價格ノ範圍內ニ於テ其ノ損耗度ヲ參酌シ算出シタル額以內トス

ロ、イニ該當セザル設備ニシテ同一ノ品種及規格ノ新品ニ付價格等統制令第七條第一項ノ規定ニ依ル製造業者ノ依ルベキ販賣價格ノ指定又ハ同令第三條第一項ノ規定ニ依ル製造業者ノ依ルベキ販賣價格ノ認可アリタルモノニ在リテハ當該販賣價格ノ八割ニ相當スル額ノ範圍內ニ於テ其ノ損耗度ヲ參酌シ算出シタル額以內トス

ハ、イ及ロニ該當セザル設備ニ在リテハ同一ノ品種及規格ノ新品ノ製造業者ノ昭和十四年九月十八日ニ於ケル停止價格停止價格ナキトキハ市場價格ノ八割ニ相當スル額ノ範圍內ニ於テ其ノ損耗度ヲ參酌シ算出シタル額以內トス但シ停止價格停止價格ナキトキハ市場價格ノナキモノ又ハ其ノ判定困難ナルモノニ在リテハ其ノ讓渡又ハ出資ノ際ニ於ケル同一ノ品種及規格ノ新品ノ製造原價並ニ一般管理費及販賣費ノ合計額ノ八割ニ相當スル額ノ範圍內ニ於テ其ノ損耗度ヲ參酌シ算出シタル額以內トス

(二)新品

イ、同一ノ品種及規格ノ新品ニ付價格等統制令第七條第一項ノ規定ニ依ル販賣價格ノ指定又ハ同令第三條第一項ノ規定ニ依ル販賣價格ノ認可アリタル設備ニ在リテハ當該指定又ハ認可ニ依リ定マル最終ノ販賣價格ニ相當スル額以內トス

ロ、イニ該當セザル設備ニ在リテハ同一ノ品種及規格ノ新品ノ最終販賣業者ノ昭和十四年九月十八日ニ於ケル市場價格ニ相當スル額以內トス但シ昭和十四年九月十八日ニ於ケル市場價格ノナキモノ又ハ其ノ判定困難ナルモノニ在リテハ其ノ讓渡又ハ出資ノ際ニ於ケル同一ノ品種及規格ノ新品ノ製造原價並ニ一般管理費及販賣費ノ合計額ノ一割ニ相當スル額ヲ加算シタル額以內トス

二、設備ノ賃貸料ハ前號ニ依ル評價額ノ年二割四分ニ相當スル額以內トス

第四　權利ノ評價

一、工業所有權ノ時價算定ニ當リテハ左ノ各號ヲ考慮ニ加フルモノトス

(一)當該工業所有權ノ存在ニヨリ齎ラサルベキ收益增加ノ程度

(二)同種工業所有權ノ一般管理費及販賣費

(三)今後ノ存續期間

(四)有償ニ取得シタルモノハ其ノ取得價格

二、電話加入權ハ時價ヲ以テ之ヲ評價スルモノトス

日ニ於ケル市場價格ノナキモノ又ハ其ノ判定困難ナルモノニ在リテハ其ノ讓渡又ハ出資ノ際ニ於ケル同一ノ品種及規格ノ新品ノ製造原價並ニ一般管理費及販賣費ノ合計額ニ其ノ一割ニ相當スル額ヲ加算シタル額以內トス

二、設備ノ賃貸料ハ前號ニ依ル評價額ノ年二割四分ニ相當スル額以內トス

第四　權利ノ評價

一、工業所有權ノ時價算定ニ當リテハ左ノ各號ヲ考慮ニ加フルモノトス

(一)當該工業所有權ノ存在ニヨリ齎ラサルベキ收益增加ノ程度

(二)同種工業所有權ノ一般管理費及販賣費

(三)今後ノ存續期間

(四)有償ニ取得シタルモノハ其ノ取得價格

二、電話加入權ハ時價ヲ以テ之ヲ評價スルモノトス

◉農商省告示第三號

企業整備資金措置法施行規則第七十二條第二號ノ規定ニ依リ場合左ノ通指定ス

昭和十九年四月五日　東條　英機

軍需大臣　東條　英機

農商大臣　內田　信也

轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ガ其ノ資產ヲ轉廢業者資產評價委員會ノ議ヲ經タル價格ニ依リ同業者又ハ其ノ團體ニ對シ讓渡其ノ他ノ處分ヲ爲ス場合

◉運輸通信省告示第百四十五號

昭和十八年六月遞信省告示第七百五十三號木船保險ノ組合員關係並ニ保險關係成立ノ時ノ特例ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十八年六月遞信省告示第七百五十二號木船保險法施行規則第八條ノ木船指定ノ件ハ之ヲ廢止ス

昭和十九年四月五日　運輸通信大臣　五島　慶太

「總噸數五十噸以上ノ木船ニシテ」ヲ削ル

◉運輸通信省告示第百四十六號

昭和十八年八月遞信省告示第九百三十二號木船保險法施行規則第一條第二號ノ木船指定ノ件中左ノ通追加ス

昭和十九年四月五日　運輸通信大臣　五島　慶太

「總噸數二十噸未滿ノ木船ニシテ戰時海運管理令ニ依リ使用セラルルモノ」

◉運輸通信省告示第百四十七號

統制會社令第五條第二項ノ規定ニ依リ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲倉庫業ノ統制ノ爲ニスル經營ヲ行フコトヲ目的トスル統制會社ノ設立ニ關シ昭和十九年四月四日左ノ通設立委員ノ選任ヲ認可セリ

昭和十九年四月五日　運輸通信大臣　五島　慶太

設立委員ノ名稱及住所

三菱倉庫株式會社取締役社長三橋信三　東京都日本橋區江戸橋一丁目一番地

三井倉庫株式會社取締役會長大塚俊雄　東京都日本橋區箱崎町三丁目一二番地

株式會社住友倉庫取締役社長細谷庄三郎　大阪市西區川口町八丁目一番地

東陽倉庫株式會社取締役社長磯貝浩　名古屋市榮區天王崎町三六番地七

澁澤倉庫株式會社取締役會長佐々木修二郎　東京都日本橋區茅場町一丁目三番地

川西倉庫株式會社取締役社長井上治郎　神戸市兵庫區川崎町一一四番地

株式會社杉村倉庫取締役社長山本幸枝　大阪市港區北福崎西之町五番地

日本通運株式會社社長久保田敬一　東京都麴町區丸ノ內二丁目二〇番地

◉通信院告示第百七十三號

明治三十八年十二月遞信省令第八十四號ニ依リ昭和十九年三月二十日ヨリ左記鑛業特設電話所ヲ設置セリ

昭和十九年四月五日　通信院總裁　小松　茂

名稱　位置

イトムカ鑛業特設電話所　北海道北見國常呂郡留邊蘂町字富士見

◉通信院告示第百七十四號

昭和十九年四月一日ヨリ左記郵便局ヲ改稱セリ

昭和十九年四月五日　通信院總裁　小松　茂

現名稱　改稱　位置

志木郵便局　志紀郵便局　埼玉縣北足立郡志紀町

內海郵便局　安浦郵便局　廣島縣加茂郡安浦町

三津口郵便局　安浦三津口郵便局　同同同大字三津口

◉通信院告示第百七十五號

昭和十九年四月六日ヨリ左記郵便局ヲ設置シ之ヲ通信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ特ニ指定スル郵便局トス但シ郵便物集配事務ヲ取扱ハズ

昭和十九年四月五日　通信院總裁　小松　茂

名稱　位置

横濱岩瀨郵便局　横濱市磯子區瀨頭町字岩瀨磯子局郵便區內

岩津郵便局　福岡縣三池郡高田村大字岩津（江浦局郵便區內）

去月二十三日陸軍省令第十六號中四六九頁一段終ヨリ六行「修習セシムベキ者ニ在リテハ」ハ「修習セシムベキ者ニ在リテハ」ノ誤四七〇頁下段附錄第五ノ部番號八ノ甲欄ノ斜線ハ削除ス同九ノ乙欄四五行「其ノ度ニ「ヂオプトリー」」ハ「其ノ度ニ「ヂオプトリー」」同一三ノ乙欄初行「晉又」ハ「晉又」同段附錄第五附表中備考ノ部四行「示指中指環指」ハ「示指中指環指」四七三頁附錄第七ノ乙號表中機能並ニ臨床檢査ノ內科領域ノ下欄「ゲンレント所見」ハ「レントゲン所見」ノ孰モ誤

陸軍省副官

去月二十七日大東亞省令第七號五四行「第二十三號及第二十五號」ハ「及第二十三號」同十三行「第十九號」ハ「第十九號、第二十五號」ヲ「第二十號」ノ孰モ誤　大東亞書記官

本年二月二十二日農商省告示第百六十一號中四六一頁二段十三行「四八錢」ハ「五六八錢」同二十八日同第三百七十七號中六〇五頁三段三　なま鰹及竹輪鰹ノ表中「水晒セザルモノ　正味十匁」ハ「水晒セルモノ　正味十匁」ノ孰モ誤　農商書記官

去月二十七日運輸通信省令第二十六號二行「當分ノ間之ガ取扱ヲ停止ス」ハ「當分ノ內之ヲ停止ス」ノ誤　運輸通信省書記官

敍任及辭令

◉昭和十八年十二月一日

正六位　平島　正義　同

黑川佐太郎　同

田中巖　同

柳橋寶　同

平田　同

中村　同

富一　彬　同

岩田　秀夫

西迫　薰

上山　操

石井　英一

小野　雅

敍從五位

敍從六位

同　北島　三郎　同

同　高室　一彥

同　森下　增一

同　後藤　直記

同　竹永　信男

同　渡邊　動

同　和田　耕一

敍正六位

同　小代　清次郎

同　和氣　秀太郎

同　井岡　經松

同　山本　茂助

同　城山　元助

同　原田　作一

同　宗像　守雄

同　杉木　桃吉

同　早矢仕　功

同　稻葉　晉

同　草場　久雄

同　中右　賢治

同　清水　讓三

同　山崎　義　健壽

同　辛島　太吉郎

同　阿部　吉雄

同　竹內　涉

同　德永　滿

同　井尻　萬太郎

同　今西　三郎

敍從六位

同　竹崎　五郎

同　松本　久治郎

同　白井　正臣

同　森本　通

同　田中　昌和

同　奧本　藤太郎

同　今野　修門

同　三井　增平

同　山崎　久

同　藤田　豐藏

同　仲里　清邦

同　菊池　準行

同　繁一

同　大河內　嚴

同　藤　謙作

同　內藤　弘喜

同　齊藤　忠良

同　磯西　文藏

同　杵淵　彌

同　長川　太郎　續

同　若松　利彥

同　福田　進

同　嵩　龍和

同　進　節之助

同　西堀　磯吉

同　奧宮　齋

同　八佐藤　次郎

同　牧島　進

同　黑柳　貫一

同　長野　祐憲

同　吉田　隆喜

同　宮戶　了要

同　古迫　政雄

同　葛卷　行德

同　岡嶋　哲郎

同　閒嶋　八百藏

同　矢島　專一

同　森田　庚

同　閒阪　三郎

同　和田　正一郎

同　伊藤　次郎

同　東野　致明

同　櫻井　之一

同　新本　勇夫

敍從七位

同　古川　亀代太郎

同　德田　利右衛門

同　赤澤　正次郎

同　竹田　卯一郎

同　永島　播

同　可　慶

同　藤村　清

同　木村　慶信

同　丸田　新太郎

同　福場　昇

同　清水　信義

同　永野　茜

同　織山　透

同　大平　長四郎

敍正七位

同　清川　彌助

同　中根　正

同　齊藤　忠良

同　野口　夏太郎

同　山本　孝雄

同　雫石　脩三

同　阿見　照雄

同　鴻塚　栉次郎

同　菅本　外男

同　時女　榮次郎

同　松田　義久

同　藤本　正夫

同　鳥居　治郎

同　直橋

同　藤　勇

同　橘　健治

同　藤岡　寶

同　桂　新作

同　渡部　文治郎

同　今河　武

同　吉田　喜一郎

◉昭和十九年三月十八日

從六位　松元　義祐

從七位　石川林四郎

敍正七位

同　佐野　鈴木　又一

同　永井　剛

同　矢澤　三吉

同　戶部　福藏

同　堀　美代

同　相馬　正太郎

同　關　輝男

同　嶋田　義治

同　高橋　清一郎

同　村上　德之輔

同　和田　吉次

同　高橋　八郎

同　岡橋　研太郎

同　組橋　隆則

同　船井　幸市

同　橋本　富士雄

同　新藤　計麿

同　深井　宇太郎

敍正六位

同　岸田　鹿藏

同　金田　秀夫

同　佐々木幸龜

敍從七位

同　吉村　順一

同　渡部　隆義

◉昭和十九年三月二十日

從六位　油木兵吉郎

敍從五位

正七位　朱村　公鍵

同　木村吉三郎

同　日高不二雄

敍從六位

同　稻留　正文

同　弘岡三佐穗

同　井上一三

敍從七位

同　原　才太郎

同　岩野　佳美

敍正七位

同　直崎　晴光

同　豐藏　亨

同　桐本　池田

同　佐藤　川口

同　金城　寅

同　幸太郎　農夫

同　金二郎　緒方武太郎

同　嶋田　前田實人

敍從七位

同　吾河　平野　三郎

同　知三　正毅　豐

敍從五位

正六位　油木兵吉郎

（通各）石谷　貞助　國民學校訓導
（通各）久米田忠盛　國民學校訓導
（通各）鈴木　正義　國民學校訓導
（通各）田村藤　定次郎　國民學校訓導
（通各）阿部　常雄　國民學校訓導
（通各）中嶋　眞吉　國民學校訓導
（通各）手島　明　國民學校訓導
（通各）福原　繁　國民學校訓導
（通各）小澤　茂　國民學校訓導
（通各）大江　一雄　國民學校訓導
（通各）中村　彌三郎　國民學校訓導
（通各）和田　一　國民學校訓導
（通各）阪本　清　國民學校訓導
（通各）辻　正憲　國民學校訓導
（通各）尾崎　一郎　國民學校訓導
（通各）木下　義雄　國民學校訓導
（通各）東　一雄　國民學校訓導
（通各）大江　宇一　國民學校訓導
（通各）岩本　嘉平　國民學校訓導
（通各）西　豊　國民學校訓導
（通各）中村　清　國民學校訓導
（通各）山形　常雄　國民學校訓導
（通各）大塚　阿部　國民學校訓導
（通各）土屋　永　國民學校訓導
（通各）阿部　常雄　國民學校訓導
（通各）佐藤　直次　國民學校訓導
（通各）村上　勇　國民學校訓導
（通各）福井　常雄　國民學校訓導
（通各）高橋　義一　國民學校訓導
（通各）鳥山　永　國民學校訓導
（通各）石川　勇　國民學校訓導
（通各）佐藤　芳次　國民學校訓導
（通各）道下　亀吉　國民學校訓導
（通各）村本　助八　國民學校訓導
（通各）小林　清　國民學校訓導
（通各）長谷川　野　國民學校訓導
（通各）本背　柳和　國民學校訓導
（通各）三輩　平　國民學校訓導
（通各）大塚　文雄　國民學校訓導
（通各）阿部　常雄　國民學校訓導
（通各）土屋　正　國民學校訓導
（通各）高林　金吉　國民學校訓導
（通各）小澤　茂　國民學校訓導
（通各）小木曽　正

（各通）
軍需省軍需官　針貝　宣一
同　日高準之介
軍需技師　白川　清
航空兵器總局兼務ヲ命ス　片田江星輝
同
鐵鋼局兼務ヲ命ス　軍需省軍需官　佐橋　滋
總動員局兼務ヲ免ス　同　皆川　良三
總動員局兼務ヲ命ス　同　中島　豊次
機械局兼務ヲ命ス　軍需技師　三ツ井新次郎
電力局計畫課長ヲ命ス　軍需省軍需官　上野　幸七
電力局需給課長ヲ命ス　軍需技監　深尾榮四郎
電力局施設課長事務取扱ヲ命ス　軍需省軍需官　山口　傳
總動員局勤務ヲ命ス　同　小野　又藏
（各通）　軍需技師　目黒　雄平
電力局勤務ヲ命ス　同　内野　稔
燃料局醱酵工業部長ヲ命ス　軍需省部長　黒野　勘六
燃料局醱酵工業部業務課長心得ヲ命ス　軍需省軍需官　石井由太郎
燃料局醱酵工業部製造課長ヲ命ス　軍需技師　杉山　晋朔
燃料局醱酵工業部雷撃課長ヲ命ス　軍需省軍需官　愛甲　文雄
航空兵器總局第二局雷撃課長ヲ命ス　同　跡部　保
航空兵器總局第一局飛行機課長ヲ命ス　同　森本　長男
（各通）　同　岩本　行雄
鐵鋼局兼務ヲ命ス　同　亀谷　殿
航空兵器總局勤務ヲ命ス　同　浅沼　保
同　佐藤　正憲
軍需省軍需官兼軍需省軍需監理官　米澤市太郎
名古屋軍需監理部勤務ヲ命ス（以上十一日同）

六級俸下賜　通信事務官　馬場　侃
八王子郵便局在勤ヲ命ス　同　安部　六郎
九級俸下賜
淺草郵便局在勤ヲ命ス（以上十三日運輸通信省）　航空機乗員養成所教諭　坂本　市次
京都航空機乗員養成所長心得兼務ヲ命ス（十五日同）　通信事務官　今井　常藏
六級俸下賜
盛岡郵便局臨時在勤ヲ命ス　同　佐々木悟道
六級俸下賜
室蘭郵便局臨時在勤ヲ命ス　氣象技師　相馬　清二
札幌管區氣象臺兼務ヲ免ス
中央氣象臺兼務ヲ命ス（以上十三日同）　鐵道官　高橋　末吉
名古屋鐵道局業務部貨物課長兼旅客課長ヲ命ス　同　梶本　保邦
廣島鐵道局業務部貨物課長兼旅客課長ヲ命ス　同　今村　義夫
新潟鐵道局業務部貨物課長兼旅客課長ヲ命ス　同　久田　富治
仙臺鐵道局業務部貨物課長兼旅客課長ヲ命ス　同　野村　彬彦
札幌鐵道局業務部貨物課長兼旅客課長ヲ命ス　鐵道官補　伊原　進一
東京鐵道局新橋運輸部勤勞課長ヲ命ス　鐵道官　白上　彰
門司鐵道局業務部貨物課長兼旅客課長ヲ命ス　通信院（各通）事務官　石川武三郎
（通）技師　山田　俊次　同　米山　正雄
同　浅村佐一郎　同　松本喜十郎
電波局勤務ヲ命ス

工務局勤務ヲ命ス　通信院技師　菊谷　秀雄
（各通）　同　臼田　秀治
工作所勤務ヲ命ス　同　平山　溫
東京中央電氣通信工事局在勤ヲ命ス　通信技師　尾佐竹　猛
山形貯金支局長ヲ命ス　通信院屬　林　清一
名古屋貯金支局庶務課長ヲ命ス　同　今井　房吉
新潟遞信局貯蓄部奬勵課長ヲ命ス　遞信局事務官　渡部　一夫
仙臺遞信局貯蓄部奬勵課長ヲ命ス　同　鹿目　勝衛
仙臺遞信局貯蓄部貯蓄課長ヲ命ス　同　内田　孝三
仙臺遞信局貯蓄部奬勵課長ヲ命ス　遞信局技師　泉田　寛
仙臺遞信局貯蓄部福祉課長ヲ命ス　通信技手　若尾正五郎
東京大森電話局交換課長ヲ命ス　同　今藤　哲
東京中央電話局築地分局長兼東京中央電話局京橋分局長ヲ命ス　同　船越　渉
大阪中央電話局住吉分局長ヲ命ス　同　滝　弘二郎
大阪中央電話局北分局長兼大阪中央電話局豐崎分局長ヲ命ス（以上十一日同）

正誤

昨四日本欄八四頁一段吉岡範武ヨリ竹中三郎ニ至ル十一人ノ難令日附十八年十二月三十一日」ハ「三月三十一日同七二四頁一段「牧田四郎右衛門」ハ「枚田四郎右衛門」ノ誤植

宮廷錄事

◉皇太后宮行啓　皇太后陛下ハ一昨三日午前九時四十分大宮御所御出門賢所ヘ行啓同十時四十三分還御アラセラレタリ

◉拜謁　海軍中佐大島一太郎以下海軍少尉候補生ハ本月二日午前十時天皇陛下ニ拜謁畢テ賢所參拜仰付ケラレタリ

彙報

○官廳事項

◉官吏族籍變更　鐵道官金平洋一ハ今般岡山縣ヨリ福岡縣ヘ本籍ヲ變更セリ

◉廢官　貴族院書記官河野義克ノ兼神祇院事務官ハ昭和十八年勅令第八百四十號ニ依リ去月三十一日限廢官ト爲レリ

◉官吏死去　海運局鑑査官從七位竹内一郎ハ去月二十二日死去セリ

○司法

◉公證人辭任　札幌地方裁判所所屬公證人寺崎福彦ハ本月一日願ニ依リ公證人ヲ免セラレタリ（司法省）

◉公證人任命　池ノ内一郎ハ本月一日公證人ニ任セラレ札幌地方裁判所所屬及元公證人寺崎福彦ノ後任ヲ命セラレタリ（司法省）

○產業

◉臨時日本標準規格　襲ニ工業品規格統一調査會ノ調査審議ヲ經テ左ノ臨時日本標準規格ヲ決定セリ（技術院）

一ブロックゲージ（臨時日本標準規格第五一六號）

第一條　本規格ハ「ブロックゲージ」及其ノ附屬品ニ之ヲ適用ス「ブロックゲージ」トハ横斷面矩形ニシテ平行平坦タル測定面ヲ有スル端度器ヲ謂フ

第二條以下ヲ略ス

以上第四部會臨時第八委員會關係

一ネーバル黃銅棒（臨時日本標準規格第五二五號）

日本標準規格第四四號ネーバル黃銅棒ハ次ニ依ルモノトス

第一條　本規格ハ一般用「ネーバル」黃銅棒（以下單ニ棒ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

但シ特殊ノ用途ニ供スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條以下ヲ略ス

以上第一部會第二委員會關係

（備考）　右規格ハ技術院規格部ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

○遞運

◉軌道特許狀下付　去月三十日東京急行電鐵株式會社ニ對シ軌道敷設特許狀ヲ下付セリ其起業目論見ノ概要左ノ如ク（運輸通信省、內務省）

動力　軌間　起終點　粁程　建設費
電氣　一、四三五米　神奈川縣川崎市大師西町一〇三番地、同縣同市五二四〇　四、四五四、〇〇〇圓
大字池上新田地堤外二〇六番地

土地收用公告

昭和十九年二月十九日內務大臣決定ニ係ル福岡市長起業福岡都市計畫事業道路博多姪濱線築造工事ノ爲收用スヘキ土地ノ細目左ノ如シ

昭和十九年四月五日　福岡縣知事　吉田　茂

土地細目

福岡市天神町二八番ノ九、二九番ノ三、三〇番ノ一、三二番ノ一、三三番ノ一、三四番ノ一、元三四番ノ內ノ一、三五番ノ一、又三七番、三七番ノ一宅地福岡市大名町六九番ノ一宅地、七六番ノ一教會構內地

名古屋市中區岩井通三丁目十九番地ワシノ製織株式會社ヨリ同社所有ノ既設工場財團ニ對シ新ニ土地、建物、機械等ヲ追加シテ右工場財團ニ屬セシムル旨ヲ以テ工場財團目錄變更ノ登記申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若クハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十二日以內ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ

但工場財團ニ屬スヘキモノ、目錄ハ當廳ニ備付アリ關係者ノ閲覽ニ供ス

昭和十九年四月五日　岡崎區裁判所安城出張所

大分郡戸次町大字中戸次四五四〇番地ノ二大分食糧工業株式會社ヨリ大分郡戸次町大字中戸次字西浦四五三八番地ノ二、同所四五四〇番ノ二、同所四五四一番ノ二大分食糧工業株式會社第一工場大分郡戸次町大字中戸次字西浦四五三九番、同所四五四一番ノ一、同所四五五一番、同所四五五二番、同所四五五三番、同所四五五四番大分食糧工業株式會社第二工場組成ノタメ所有權保存登記ノ申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若クハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十二日以內ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ

但工場財團ニ屬スヘキモノ、目錄ハ當廳ニ備付アリ關係者ノ閲覽ニ供ス

昭和十九年四月五日　大分區裁判所中戸次出張所

廣告

◉證票無效

第一號收稅官吏章　一葉

昭和十七年二月十七日交付

加治木稅務署在勤稅務署屬坂本兼則名義ノ分右亡失ノ旨屆出ニ付無效トス　熊本財務局

昭和十九年四月

◉工場財團　山口縣

南多摩郡南村金森七百番地所在ノ株式會社大塚製作所南工場ニ屬スル土地、建物、工作物並ニ機械器具等ニ對シ工場財團組成ノタメ所有權保存登記ノ申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押若クハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十二日以內ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ

但シ工場財團ニ屬スヘキモノ、目錄ハ當廳ニ備付アリ關係者ノ閲覽ニ供ス

昭和十九年四月五日　八王子區裁判所町田出張所

◉公債償還

山口縣第十七回電氣事業公債未償還元金九百八十六萬六千圓去月三十一日全部繰上償還ニ付三和住友信託株式會社、株式會社百十銀行各本支店ニ於テ之ヲ支拂フ

昭和十九年四月　山口縣

◉公示催告

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十五日臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致候ニ付當會社ニ債權ヲ有セル向ハ本公告掲載ノ日ヨリ向フ二箇月以內ニ其債權ノ御申出相成度若シ右期間內ニ御申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年三月三十日

東京市麴町區有樂町一丁目三番地東光ビル）　旭工業株式會社

代表清算人　仲井久米槌

會社合併公告

昭和十九年三月二十八日當會社ハ夫々ノ社員總會ニ於テ有限會社補堂ハ大和紙工有限會社ヲ合併シテ存續シ大和紙工有限會社ハ之ニ因リテ解散スルコトノ決議ヲ爲シタリ就テハ其合併ニ付異議アル債權者ハ掲載日ノ翌日ヨリ向フ二箇月以內ニ其旨ヲ當會社迄申出テラレ度此段公告候也

昭和十九年四月五日

東京都神田區東松下町三十番地　有限會社補堂　取締役　井上智惠吉

東京都神田區東松下町二十六番地　大和紙工有限會社　取締役　井上智惠吉

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十八日社員總會ノ決議ニ依リ解散致シタルニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラルヘ、方ハ本公告掲載ノ日ヨリ二箇月以內ニ其債權ノ申出相成度若シ右期間內ニ申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年三月三十一日

東京都日本橋區蠣殼町一丁目二番地　合資會社丸二商店　清算人　小林保次郎

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十三日ノ株主總會ノ決議ニ依リ解散シタルニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラルヘ、方ハ本公告掲載ノ日ヨリ二箇月以內ニ其債權ノ申出相成度若シ右期間內ニ申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年三月二十九日

東京都日本橋區小網町三丁目一番地二　株式會社二六商會　清算人　西原寅次郎　同　橋本幸一

解散公告

當會社ハ昭和十八年十二月二十一日開催ノ臨時總會ノ決議ニ依リ解散致シ昭和十九年二月十四日認可有之候ニ付當組合ニ對シ債權ヲ有セラル向ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ向フ二箇月間ノ內ニ御申出相成度若シ期間內ニ御申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段及公告候也

昭和十九年四月五日

東京都本所區江東橋一丁目二番地　東京可鍛鑄鐵工業組合　清算人代表　瀧澤七郎

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十五日臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致シ昭和十九年二月十四日認可有之候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、方ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ向フ二箇月以內ニ其債權ノ申出相成度若シ右期間內ニ申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年三月三十一日

東京都八王子市中野町三九一八番地　多摩米菓工業有限會社　清算人　井上勇二

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十五日臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致シ昭和十九年二月十四日認可有之候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、方ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ向フ二箇月以內ニ其債權ノ申出相成度若シ右期間內ニ申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年三月三十一日

東京都八王子市中野町二九一七番地　八南あられ有限會社　清算人　伊藤三之助

解散公告

當會社ハ昭和十八年七月八日總社員ノ同意ニ依リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、向ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ向フ二箇月以內ニ其旨御申出相成度右期間內ニ御申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年四月五日

東京都蒲田區糀谷町二丁目四三二番地　合資會社厚生硝子工業所　清算人　辻村琢磨

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十五日社員總會ノ決議ニ依リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、方ハ昭和十九年五月三十日迄ニ其債權ノ申出有之度若シ右期間內ニ申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致商法ノ規定ニ依リ此段公告候也

昭和十九年三月二十七日

東京都八王子市八幡町二十七番地　八南あられ有限會社　清算人　伊藤三之助

解散公告

當會社ハ昭和十九年三月二十四日臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、向ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ向フ二箇月以內ニ其債權ノ申出相成度若シ右期間內ニ御申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也

昭和十九年三月二十四日

東京都深川區平野町一丁目二番地　東亞軍需紙器株式會社　代表清算人　鹿取謹之助　清算人　奥山英男　同　鹿取政次郎

昭和十九年四月五日
大阪市西區新町南通四丁目三番地
鐵骨纖手販賣株式會社
清算人 久芳康人 野上辨造
福原耕一

解散公告
當會社ハ昭和十九年三月二十日ノ臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、向ハ昭和十九年三月三十一日迄ニ御申出相成度若シ右期間内ニ御申出ナキトキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也
昭和十九年三月三十一日
大阪市東淀川區國次町一一九一番地
吉川實石鹸株式會社
錦生本行清算人 山口一六

資本減少ニ付異議申述公告
當會社ハ昭和十九年三月一日開催ノ社員總會ニ於テ資本金十四万四千圓ヲ金十二万圓ニ減少スルコト其方法トシテ特定社員ノ持分二百四十口（一口ノ金額金一百圓）ヲ消却スルコト決議致候就テハ之ニ御異議アル債權者ハ昭和十九年五月末日迄ニ其旨御申述相成度商法ノ規定ニ依リ此段公告候也
昭和十九年四月五日
岡崎市井田町字欠間四番地
日東纖維工業有限會社

合併公告
昭和十九年三月十七日有限會社深川窯業所ハ有限會社丸治孫田製陶所ヲ合併シテ存續シ有限會社丸治孫田製陶所ハ解散スルコトヲ夫々社員總會ニ於テ決議致候ニ付之ニ異議アル債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ二箇月以内ニ其旨御申立相成此度段公告候也
昭和十九年四月五日
瀬戸市須原町四十四番地
有限會社 深川窯業所
瀬戸市孫田町八十八番地
有限會社丸治孫田製陶所

債權申出公告
當會社ハ昭和十九年四月一日開催ノ臨時株主總會ニ於テ解散ノ決議ヲ致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、向ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ起算シ二箇月以内ニ御申出相成度若シ右期間内ニ御申出ナキトキハ清算ヨリ除斥可致此段及公告候也
昭和十九年四月二日
大津市後在家町十三番地
滋賀縣石油配給株式會社
代表清算人 近藤義隆

債權申出公告
當會社ハ昭和十九年三月十五日株主總會ノ決議ニ因リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、方ハ本年六月十日迄ニ其債權ノ御申出相成度若シ右期日迄ニ御申出無之トキハ清算ヨリ除外可致商法ノ規定ニ依リ公告候也
昭和十九年四月五日
金澤市鷹川町二十四番地
北陸製絹株式會社
清算人 島田七郎 右衛門 小川 嘉一
新名彌三吉 高坂 由松

債權申出公告
當會社ハ昭和十九年三月十五日株主總會ノ決議ニ因リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、方ハ本年五月三十一日迄ニ其債權ノ御申出相成度若シ右期日迄ニ御申出無之トキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也
昭和十九年三月二十七日
福岡市瓦町二十七番地
株式會社淵上吳服店
清算人 淵上徹郎

清算公告
福岡縣京都郡泉村大字竹並八百四十四番地竹並圓法寺阿彌陀堂ハ宗教團體法施行令第四十一條ノ規定ニ依リ解散致シ清算中ニ付本佛堂ニ債權ヲ有スル者ハ本公告ヨリ二箇月以内ニ申出相成度此期間中ニ申出ナキトキハ清算ヨリ除外致候
昭和十九年三月二十日
福岡縣京都郡泉村大字長江五百十五番地
右佛堂清算人 村上良孝

◉公示催告公告中訂正
本月一日本欄内掲載拂戻者名簿當組合解散公告中債權申出期間「昭和十九年五月十四日迄」ヲ「本公告掲載ノ日ヨリ二箇月以内」ニ訂正ス
昭和十九年四月五日
東部塗料工業組合
清算人 齊藤定藏

◉失踪ニ關スル屆出ノ催告
本籍並最後ノ住所山形縣東村山郡天童町大字久野本二十八番地 明治三十六年十一月一日生 德治
右不在者ニ對シ利害關係人後藤イマヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十一月十五日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪宣告ヲ爲スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

本籍並最後ノ住所山形縣東村山郡天童町大字久野本二十八番地 明治三十六年十一月一日生 後藤 德治
右不在者ニ對シ利害關係人後藤イマヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十一月十五日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪宣告ヲ爲スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

本籍勇拂郡鵜川村字春日三八四
最後ノ住所樣似郡樣似村字幌滿（池内 造材部）
不在者 關 留吉
明治三十五年九月五日生
右不在者ニ對シ利害關係人關鶴吉ヨリ失踪宣告ノ申立ヲナシタルニ付不在者ハ昭和十九年九月二十五日午前十時迄ニ當裁判所ニ生存ノ屆出ヲナスヘク若シ其ノ屆出ヲナサヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其屆出ヲ爲スヘシ
昭和十九年三月十六日 浦河區裁判所

本籍並最後ノ住所小樽市石山町七十三番地
不在者 齊藤寅太郎
明治三十五年六月十六日生
右不在者ニ對シ利害關係人齊藤イヲヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年九月三十日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ
昭和十九年三月九日 小樽區裁判所

本籍並最後ノ住所 北海道上川郡比布村字比布市街地
不在者 須藤金五郎
安政三年四月二十二日生
右不在者ニ對シ利害關係人須藤種太郎ヨリ失踪宣告ノ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年九月三十日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ申立ニ依リ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ
昭和十九年三月十四日 判事 高橋仲次郎

本籍並最後ノ住所 北海道雨龍郡雨龍村字渭ノ津七十五番地ノ一
明治七年一月二十七日生
宜告ノ爲ノ公示催告申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年九月二十五日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ申立ニ依リ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ
昭和十九年三月十五日 判事 高橋仲次郎
旭川區裁判所

本籍北海道厚岸郡濱中村大字琵琶瀬村二番地
最後ノ住所本籍ニ同シ 不在者 藤田三五郎
弘化元年十一月二十三日生
右不在者ニ對シ利害關係人藤田兼次郎ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十月二十日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ
昭和十九年三月十八日 釧路區裁判所

◉失踪宣告
本籍及最後ノ住所群馬縣群馬郡富士見村大字横室六十六番地 不在者 大友 まさ
明治二十五年十月十三日生
右ニ對シ東京都城東區大島町七丁目二百二十二番地大友盛之助ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十九年三月十五日失踪ノ宣告ヲ爲シタルニ因リ大正六年六月三十一日死亡シタルモノト看做サレタリ
昭和十九年三月十五日 前橋區裁判所

本籍及最後ノ住所群馬縣群馬郡駒寄村大字大久保千百十三番地 明治三十一年五月三十日生 山岸 政雄
右ニ對シ同所同番地山岸ハナノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十九年三月十五日失踪ノ宣告ヲ爲シタルニ因リ昭和九年五月二十六日死亡シタルモノト看做サレタリ
昭和十九年三月十五日 前橋區裁判所

本籍及最後ノ住所前橋市立川町二十一番地
不在者 小池政太郎
明治二十三年十二月二日生
右ニ對シ同所同番地小池善三郎ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和十九年三月十五日失踪ノ宣告ヲ爲シタルニ因リ大正六年一月三十一日死亡シタルモノト看做サレタリ
昭和十九年三月十五日 前橋區裁判所

◉債權者集會期日
破產者 莊 外三壁
右ノ者ニ對スル大正十二年破第一號破產事件ニ付當法院ハ破產管財人ノ終局計算報告ノ爲メ債權者集會ヲ當法院ニ於テ招集スルコト左ノ如シ
昭和十九年四月二十二日午前十時
一日時
一會議ノ目的 破產管財人ノ終局計算報告ノ爲メ
右公告ス
昭和十九年三月十八日
臺南地方法院單獨部

昭和十九年四月五日
大阪市西區新町南通四丁目三番地
鐵骨纖手販賣株式會社
清算人 久芳康人 野上辨造
福原耕一

解散公告
當會社ハ昭和十九年三月二十日ノ臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、向ハ昭和十九年三月三十一日迄ニ御申出相成度若シ右期間内ニ御申出ナキトキハ清算ヨリ除斥可致此段公告候也
昭和十九年三月三十一日
大阪市東淀川區國次町一一九一番地
吉川實石鹸株式會社
錦生本行清算人 山口一六

資本減少ニ付異議申述公告
當會社ハ昭和十九年三月一日開催ノ社員總會ニ於テ資本金十四万四千圓ヲ金十二万圓ニ減少スルコト其方法トシテ特定社員ノ持分二百四十口（一口ノ金額金一百圓）ヲ消却スルコト決議致候就テハ之ニ御異議アル債權者ハ昭和十九年五月末日迄ニ其旨御申述相成度商法ノ規定ニ依リ此段公告候也
昭和十九年四月五日
岡崎市井田町字欠間四番地
日東纖維工業有限會社

合併公告
昭和十九年三月十七日有限會社深川窯業所ハ有限會社丸治孫田製陶所ヲ合併シテ存續シ有限會社丸治孫田製陶所ハ解散スルコトヲ夫々社員總會ニ於テ決議致候ニ付之ニ異議アル債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ二箇月以内ニ其旨御申立相成此度段公告候也
昭和十九年四月五日
瀬戸市須原町四十四番地
有限會社 深川窯業所
瀬戸市孫田町八十八番地
有限會社丸治孫田製陶所

債權申出公告
當會社ハ昭和十九年四月一日開催ノ臨時株主總會ニ於テ解散ノ決議ヲ致候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有セラル、向ハ本公告掲載ノ翌日ヨリ起算シ二箇月以内ニ御申出相成度若シ右期間内ニ御申出ナキトキハ清算ヨリ除斥可致此段及公告候也
昭和十九年四月二日
大津市後在家町十三番地
滋賀縣石油配給株式會社
代表清算人 近藤義隆

臺灣債券

政府保證第拾回臺灣拓殖債券抽籤償還公告

金壹萬拾貳圓也
償還金額 金壹萬拾貳圓也
償還期日 昭和十九年四月二十日
支拂場所 日本興業銀行本店及各支店
臺灣銀行本店及東京支店・帝國銀行本店及東京支店
大阪・高麗橋各支店・三菱銀行本店及大阪支店
安田銀行本店及大阪支店・住友銀行本店及東京支店・三和銀行本店及東京支店

當籤番號

壹百圓券（甲）（5枚）	五百圓券（乙）（1枚）	壹千圓券（丙）（19枚）	五千圓券（丁）（2枚）	壹萬圓券（戊）（17枚）
自 至 41—45	9	自 至 33—36 231—245	9 47	自 至 33—36 173—181 346—350 811—815

社會式株殖拓灣臺

增資新株申込ニ付御注意

當會社增資新株式申込ノ儀豫テ御通知申上候通リ左記ニ依リ期日迄ニ御失念ナク御申込被下度候
一、申込期日 昭和十九年四月十五日
右期日迄ニ株式申込證ニ證據金ヲ添ヘ申込ナキトキハ新株式引受ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ處理ス
一、申込證據金 一株ニ付 金十二圓五十錢也
（但昭和十九年四月十五日第一回拂込株金ニ充當ノコト）
一、申込取扱所
東京 本興業銀行
帝國銀行
三菱銀行
安田銀行
朝鮮銀行
北海道拓殖銀行
住友銀行
三和銀行
野村銀行
東海銀行
神戸銀行
昭和銀行
十五銀行
埼玉銀行
常陽銀行
第四銀行
三井信託株式會社
三菱信託株式會社
安田信託株式會社
第一信託株式會社
住友信託株式會社
三和信託株式會社
大阪 日本興業銀行
住友銀行
三和銀行
野村銀行
住友信託株式會社
三和信託株式會社
帝國銀行
安田銀行
大阪支店
安田信託株式會社大阪支店
京都 安田銀行京都支店
名古屋 安田銀行名古屋支店
安田信託株式會社名古屋支店
新潟 第四銀行
以上

當增資新株式ノ拂込ハ當會社ニ於テハ一切取扱不申候
東京都京橋區寶町一丁目七番地
昭和電工株式會社
昭和十九年四月五日

社債償還公告

當社社債（舊大日本電力株式會社元東部電力株式會社第拾回物上擔保附社債昭和十年十月二十五日發行）第拾參次償還ノ爲メ抽籤致候處下記番號當籤致候ニ付社債券（昭和十九年十月二十五日以降利札附）引換ニ元金御受取被下度候也

償還金額 金貳拾五萬圓也
償還期日 昭和十九年四月二十五日
但當日銀行並ニ信託會社休業日ト相成トキハ前日ニ繰上
支拂場所 株式會社安田銀行本店及大阪、京都、名古屋、福岡、福島、宇都宮ノ各支店
安田信託株式會社本店及大阪、京都、名古屋ノ各支店

當籤番號

壹百圓券（甲）（5枚）	五百圓券（乙）（3枚）	壹千圓券（内）（48枚）	五千圓券（丁）（22枚）	壹萬圓券（戊）（9枚）
自 241 至 245	49 自 143 至 144	自 673 至 686 自 1,695 至 1,708 自 2,841 至 2,850 自 3,311 至 3,320	自 145 至 147 自 364 至 366 自 633 至 640 自 1,009 至 1,016	自 97 至 98 自 243 至 244 自 551 至 555

追而當籤債券利金ハ期日ニ昭和十九年四月二十五日渡利札面金額ヲ御支拂可申上候
昭和十九年四月 東北配電株式會社

第拾九回割引興業債券募集

債券總額 參千萬圓
各債券ノ金額 壹萬圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓、拾萬圓
割引歩合 日歩八厘貳毛五絲
發行價額 額面壹百圓ニ付金壹百圓（但拂込額ハ額面壹百圓ニ付金九拾六圓九拾八錢八厘七毛五絲）トス
乘換應募 昭和拾九年四月貳拾貳日現在第七拾八回割引興業債券ハ額面壹百圓ノ割合ヲ以テ拂込金ニ代用スルコトヲ得（但一部代用ハ之ヲ行ハス）
償還ノ方法及期限 昭和貳拾年四月貳拾壹日金額償還ス
申込期間 四月六日ヨリ同月八日迄
申込證據金 拂込又ハ代用債券提供 但期間中ニナモ締切ルコトアル（シ）
額壹百圓ニ付金參圓（但申込ノ際代用債券ノ提供アルトキハ之ヲ撰セス）
期限 四月貳拾貳日
募集取扱場所 株式會社 日本興業銀行
本行本店、大阪、神戸、名古屋、福岡、東北、富山、鹿島、北海道各支店
日興、山一、野村、大和各證券會社本支店

公告

大和證券株式會社及吉川證券株式會社ハ大藏省當局ノ御斡旋ニ依リ昭和十九年一月十七日左記ノ通リ合併契約ヲ締結致候ニ付株主各位ノ御承認ヲ賜度若シ右ニ對シ御異議有之候ハヾ本公告ノ日ヨリ三週間以内ニ其旨御申出相成度企業整備資金措置法施行令ノ規定ニ依リ東京民事地方裁判所ノ御認可ヲ受ケ此段公告候也

昭和十九年四月五日

東京都麴町區大手町貳丁目八番地
大和證券株式會社
取締役會長 三輪小十郎

東京都日本橋區江戸橋壹丁目拾五番地
吉川證券株式會社
取締役社長 吉川兵次郎

合併契約證書

大和證券株式會社(以下單ニ甲ト稱ス)及吉川證券株式會社(以下單ニ乙ト稱ス)間ニ於テ合併契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 甲ハ日本證券取引所東京市場第一種取引員ノ免許ヲ得ルコトヲ條件トシテ乙ト合併シ之ニ因リテ甲ハ存續シ乙ハ解散スルモノトス

第二條 甲ハ本件合併ニ因リ資本金五拾萬圓ヲ增加シ總資本金ヲ壹千九百貳拾五萬圓トスルモノトス

第三條 甲ハ前條ノ增加資本ニ對シ新ニ一株ノ金額五拾圓全額拂込濟株式壹萬株ヲ發行シ昭和十九年三月一日現在ノ乙ノ株主ニ對シ其ノ所有スル一株金五拾圓全額拂込濟株式壹株ニ付新株式壹株ヲ割當ツルモノトス但シ甲ノ所有スル乙會社株式壹萬株ニ對シテハ右ノ割當ヲ爲サザルモノトス

第四條 本合併契約ハ昭和十八年九月三十日ニ於ケル甲及乙ノ資產負債狀態ヲ相互ニ信用シ之ヲ基礎トシテ締結スルモノニシテ甲及乙ハ爾後合併實行ヲ完了スル迄善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ各業務ヲ執行シ且資產及權利ヲ管理保存シ之ニ重要ナル影響ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲スニ付テハ豫メ他ノ一方ト協議ヲ爲シ其ノ承認ヲ得ヘキモノトス

但シ昭和十八年九月三十日ニ於ケル甲ノ資產負債狀態ハ合併前ノ藤本證券株式會社及株式會社日本信託銀行兩社ノ勘定ノ合計トス

第五條 甲ハ乙ノ本契約締結ト同時ニ昭和十八年九月三十日現在ノ財產目錄、貸借對照表其ノ他ノ甲ノ要求スル諸計表並ニ營業取引ノ現況ヲ知ルニ足ル書面ヲ甲ニ交付スヘキモノトス

第六條 甲ハ乙ノ解散手當金五萬圓也ヲ合併期日ニ交付スヘク乙ハ該解散手當ノ限度ニ於テ乙ノ功勞者、役員及使用人ニ對シ功勞金、慰勞金等ヲ支出スルコトヲ得ルモノトス

第七條 合併實行ノ期日ハ甲及乙ノ取締役協議ノ上之ヲ決定スルモノトシ其ノ期日ニ乙ハ一切ノ權利義務ヲ甲ニ引繼クモノトス乙ノ取締役ハ合併實行當日現在ノ財產目錄及貸借對照表ヲ作成シ之ヲ甲ニ交付スヘキモノトス

第八條 甲ハ乙ノ推薦ニヨリ乙ノ從業員ヲ前條期日ニ新規ニ甲ノ從業員トシテ採用スルモノトス

前項ノ從業員ノ給與其ノ他諸待遇ハ乙ニ於ケル最終ノ狀況ヲ繼承シ乙ノ處務規定ニ準據シテ之ヲ處理スル仍ホ前項ノ規定ニ拘ラス爾後甲ノ從業員トシテノ勤務期間ハ乙ノ從業員トシテ入社シタル日ヲ以テ起算シ退職ノ場合ニ於ケル諸手當ヲ計算スルモノトス

第九條 甲及乙ハ本合併契約ノ承認ヲ求ムル株主總會ヲ招集セス企業整備資金措置法施行令ニ準據シテ手續ヲ爲スモノトス

第十條 前條ノ手續ヲ經タルトキハ甲及乙ハ遲滯ナク主務官廳ニ對シ本合併ノ認可ヲ申請スヘキモノトス

第十一條 本合併遂行ニ必要ナル事項ニシテ本契約ニ定メナキモノハ甲及乙ノ取締役協定ノ上處理スヘキモノトス

第十二條 甲乙孰レカ本合併契約ノ條項ニ違背シ又ハ本合併契約ノ締結後合併完了迄ニ天災不可抗力其ノ他ノ事由ニ因リ甲又ハ乙ノ財產ニ著シキ減少ヲ生シタルトキハ各當事者ハ何時ニテモ無條件ニテ本契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

甲乙孰レカ本合併ニ付キ主務官廳ノ認可ヲ受クルコト能ハサルカ若クハ第一條ノ許可ヲ受クルコトヲ得サルトキハ本契約ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

右合併契約ノ證トシテ本書貳通ヲ作成シ甲乙各其ノ壹通ヲ保有ス

昭和十九年一月十七日

東京都麴町區大手町二丁目八番地四
大和證券株式會社
取締役會長 三輪小十郎

東京都日本橋區江戸橋壹丁目拾五番地
吉川證券株式會社
取締役社長 吉川兵次郎

告公還償債社

附記九州水力電氣株式會社(舊社債)第七回ノ償還ノ爲メ抽籤致候間下記番號當籤致候間此段公告候也

上擔保債券拾參次一部償還金額當籤番號

昭和拾九年四月貳拾五日

九州水力電氣株式會社、三菱銀行、三菱信託株式會社、住友銀行、住友信託株式會社、三菱銀行、三菱信託株式會社

以上本店及內地所在各支店

當籤番號

壹百圓券(戊)(5枚)	壹千圓券(丙)(28枚)	五千圓券(乙)(12枚)	壹萬圓券(甲)(21枚)	
	88	487	1294	445	375
		501	1357	503	451
		654	1400	525	498
		702		613	516
21		709			597
77	20	712			608
81	142	818			748
112	149	820	49		750
140	155	825	102	118	769
	245	983	125	119	920
	265	1017	177	160	932
	312	1064	315	184	962
	317	1160	359	234	987
	436	1190	436	288	1030
	481	1252	441	340	
五百圓券(丁)(3枚)					
1					
28					

昭和拾九年四月

九州電氣株式會社

第百九拾壹回東洋拓殖債券募集

募集總額 貳千萬圓
發行價額 額面壹百圓ニ付金壹百圓
代用拂込 四月貳拾日期限第百五回東洋拓殖債券(額面壹百圓ノ割合ヲ以テ拂込金ニ代用スルコトヲ得但利金ノ代用ヲ認メス)
利率 年四分參厘
利子 拾貳箇年
償還期限 四月六日及七日
申込期間 四月貳拾日
申込證據金 額面壹百圓ニ付金參圓(申込ノ際代用證券ノ提供アルトキハ之ヲ要セス)
拂込又ハ代用證券提供期限 四月貳拾日
取扱場所 興銀、正金、鮮銀、帝國、三菱、安田、住友、三和、野村、東海、神戸、十五、昭和各銀行並ニ三井、三菱、安田、住友、三和各信託本店及內地支店
日興、山一、野村、大和各證券會社本支店

日本銀行基準割引歩合及貸付利子歩合變更公告

本行基準割引歩合及貸付利子歩合左記ノ通變更シ四月四日ヨリ實施致候間此段公告候也

記

一、政府保證又ハ日本興業銀行引受軍需手形及商業手形割引歩合並ニ右軍需手形ヲ擔保トスル資付利子歩合 日歩九厘
一、國債ヲ擔保トスル貸付利子歩合 日歩九厘以上
二、政府保證社債、政府保證金庫債券若ハ營團債券、滿洲國邦貨國債、滿洲國政府保證邦貨社債又ハ軍需會社支拂手形ヲ擔保トスル貸付利子歩合 日歩九厘五毛以上
四、其ノ他ノモノヲ擔保トスル貸付利子歩合 日歩一錢以上
五、當座貸越利子歩合 日歩一錢以上

昭和十九年四月四日

日本銀行

情報局編輯
週報 五錢
勝敗かける三百六十億戰力增强生活例
やり遂げた生活の決戰化
新らしい小荷物制度
特別操縱見習士官
技術・軍醫候補生の召募
肥料不足に燒土戰術
週間日誌・通風塔

四月五日號
寫眞週報 十錢
日本を狙ふ在支米空軍
インド國民軍と相たづさへ
皇軍インド領內に突入す
凛たり海の若櫻
ジャワの女性もお醫者さまに
勝つために旅行は獻納・僕らの科學・眞空管・覆面文藝・漫畫・四月の常會・國民合唱その他

全國各地官報週報賣及部(舊名・官報販賣所)書店・新聞店にあり

印刷局發行

(本書ノ大サハ規定國A4判)